

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1170500589
法人名	特定非営利活動法人 さわか福祉の会 きらりびとみやしろ
事業所名	グループホーム喜楽里
所在地	345-0804 埼玉県南埼玉郡宮代町川端3-8-25 (電話) 0480-36-2173

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 14人, 非常勤 5人, 常勤換算	14.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 今井病院、公設宮代福祉医療センター、医療法人社団誠和会 姫宮歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

赤ちゃんからお年寄りまで安心して住み続けることのできる地域作りを目指すことを目的としている町内の住民を中心とした有償ボランティアを母体として開設したグループホームである。当ホームは駅から徒歩5分の新興住宅地と農地が混在する場所にあり、平屋建て(一部2階)2ユニットの生活するには良い環境の場所にある。モットーは、「困ったときはお互いさま」とし、本人の望む「生活」をどう実現するか、理事長はじめ職員が一体となり考えている。職員は皆穏やかで、利用者とうったりした時間を共有し、気配りも行き届いており、利用者は安心して暮らしている様子がうかがえた。また地域との交流を大切にするという考えから自治会に入り、地域の行事に参加したり、食材も地場産の安全、新鮮な物を購入するなど地域との交流を積極的に図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は、全体会議、ユニット会議等で取り上げ、職員全体でサービス向上のため、話し合っている。その結果、ヒヤリハット、事故報告については、きちんと記録され、それをもとに研修もしている。緊急時の手当、感染症対策のマニュアルも作成され、利用者へのサービス向上につながっている。記録様式やその書き方、定期健康診断については、見直しの方向で話し合いがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価に取組み、職員一人ひとりが各項目について問題点を共有し、それを計画作成者がまとめるなどしてサービス向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議については、設置要綱が定められ、そのメンバーは家族、地域、行政等広範な分野から組織され、過去に2回ほど開催された。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回必ず利用者の近況、健康状態、金銭管理を家族に報告し、また、来所の際は その都度、直近の状況や、健康状態を話し、連携をとっている。重要事項説明書の中で示している苦情相談機関に出された相談に対応する体制も築けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、その他行事にも参加している。また、ふれあいサロンの開催、ボランティア等の受け入れなどもし、地域にとけ込むように努めている。当ホームの催し物にも、地域からの参加者が増えたり、散歩時に農作物をいただくなど、地域との関係は良好である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住民同士助け合って生活する地域文化を創りたいという考えのもと、「困ったときは、お互いさま」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議等で理念の意味、意義を説明し、日常の業務においてもお互いに理念の確認をしている。採用時研修において理念の説明を取り入れている。		
kaku					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、その他行事にも参加している。また、ふれあいサロンの開催、ボランティア等の受け入れなどもし、地域にとけ込むように努めている。当ホームの催しものにも、地域からの参加者が増えたり、散歩時に農産物をいただくなど、地域との関係は良好である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が2度目の外部評価である。外部評価は現在のサービスについてホーム側の視点とは異なった角度からの見方として尊重し、全体会議、ユニット会議等で評価結果等について話し合い、外部評価を利用者の望むサービスは何かを追求するためのツールとしている。また、自己評価票も職員全体で取り組み、職員一人ひとりが各項目についての考え方を共有している		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の目的を運営者、管理者が十分に理解したうえで年2回会議を実施し、今後も会議を十分に活用し地域の理解をより一層得たいと考えている。		運営推進会議で出された要望、意見等は大切な事柄が多いと思われるので、課題を職員全体で共有するためのルール作りをされることを望む。また、できる限り2ヶ月に1回開催することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居に当たり情報交換は十分しているが、広報誌「きらりびと通信」の発行や、新たな事業を計画した場合には相談に行くなど、市町村と随時連携をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等には、毎月1回必ず利用者の健康状態、金銭管理の報告をしている。また、来所の際はその都度、直近の状況等を話している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情相談機関を示し、意見や苦情に対応している。また家族や関係者が来所した際は、いつでも苦情や要望等が言えるような環境を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動、退職する場合は、利用者の状態により前もって家族、関係者に話し、利用者のダメージにならないような対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、採用何年後研修、スキルアップ研修、外部研修等、職員間でローテーションを組みながら実施している。外部研修等を受講後はユニット会議等で報告し、職員全体で会議内容について共有するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回町の会議に参加し、同業者と交流をしている。ここで介護保険関係の広範な知識を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染み、自然にサービスが受けられるように、同法人のデイサービスの利用や家族等との密な相談により、利用者の心配、不安をなくすように工夫をしている。また、本人に見学に来てもらい、ホームに馴染ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から漬け物の作り方や調理の仕方等を教わるなど、ケアする一方ではない学んだり、支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望等には、できるだけ応えるようにしている。しかし、十分に対応できない部分もあるので、そういった場合はスタッフ会議等で話し合い対応策を考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、ミニカンファレンス、毎月1回のケース会議で意見を出し合い、家族、関係者全員で作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回介護計画の見直しを行い、本人、家族、必要な関係者と話し合い、利用者の状態や実情に合った計画を作成している。利用者の状態に変化のある場合は、随時利用者に向けた介護計画を全体で話し合い、家族にも確認しながら作成している。		安定しているような利用者の場合も、3ヶ月に1回程度、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認し、見直しされることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急の場合で家族等が対応できない時は、ホーム側で対応するなど、医院、家族とは密な連携を取り、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が納得したかかりつけ医に受診でき、受診の際には家族が付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の支援については、現在の体制では困難である。重度化や終末期に向けた方針については職員間で共有されている。		今後は、重度化、終末期の対応について家族等から要望が出てくると思われる。今後この課題について法人としてどう対応したらいいのか、全体で考えていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を守るよう言葉かけや対応に十分気をつけている。このことについては、必ず会議等で話題に出している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望により散歩や買い物は常時実施している。また、この外に年4回食事ツアーを実施するなど、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは3ヶ月に1回食材会議が行われ利用者主体で決定している。調理も利用者と一緒にしており、楽しい時間を過ごしている。栄養面については、町の管理栄養士がチェックを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に設定せず利用者の希望に沿って支援をしている。また勤務ローテーションを工夫し、より一層利用者の希望に沿った入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った楽しみ、気晴らしの支援をしている。具体的にはテーブル拭き、食器洗い、漬け物、針仕事、農作業などを職員、ボランティアと一緒に楽しめるよう配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ等その日の利用者の希望に沿った外出をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は原則として鍵はかけていない。利用者の状態により一時的に施錠する必要があるが、家族、関係者には説明をし、理解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安心、安全の基本である避難訓練については、年1回から2回消防署立ち会いのもと実施している。また、備蓄倉庫も設置し、災害に備えている。しかし緊急の場合の地域の人達との協力体制は十分に築けていない。		消防署が立ち会う避難訓練については、今後は地域住民とともに、訓練を実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	町の管理栄養士により一日のカロリー摂取量を管理している。しかし水分摂取量は個人ごとに必要量が異なるので、声掛けなどして、水分摂取量には十分気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにつくられる利用者の手作りの作品、家族から届いた草花、人形等があり、家庭的な雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前もって、入居時に利用者の使用していたものを持参するように家族に話しており、自分の家で生活していた時に使っていた日用品を備えている。また、居室は利用者にあった手摺りや、手作りの暖簾などもあり、利用者の希望や状態に合わせた居室環境づくりを支援している。		